

新型コロナウイルスワクチン接種において
障害福祉サービス等を利用する場合の取扱いについて

新型コロナウイルスワクチン接種にあたり、障害福祉サービス等を利用する場合の取扱いにつきましては、次のとおりといたします。

1. 居宅介護等の支給決定を受けている場合

別添「新型コロナウイルス感染症に係る障害福祉サービス等事業所の人員基準等の臨時的な取扱いについて（第12報）」問6に基づき、居宅介護（通院等乗降介助、通院等介助）、同行援護、行動援護又は重度訪問介護を利用して、接種会場へ移動することは可能である。

なお、通院等乗降介助等に係る取り扱いについては、「平成20年4月以降における通院等介助の取扱いについて」（平成20年4月25日付障障発第0425001号厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部障害福祉課長通知。）を参照すること。

また、これらを利用する場合には、必要に応じて居宅介護計画等の変更やサービスの追加申請を行うことに留意すること。

2. 移動支援事業の支給決定を受けている場合

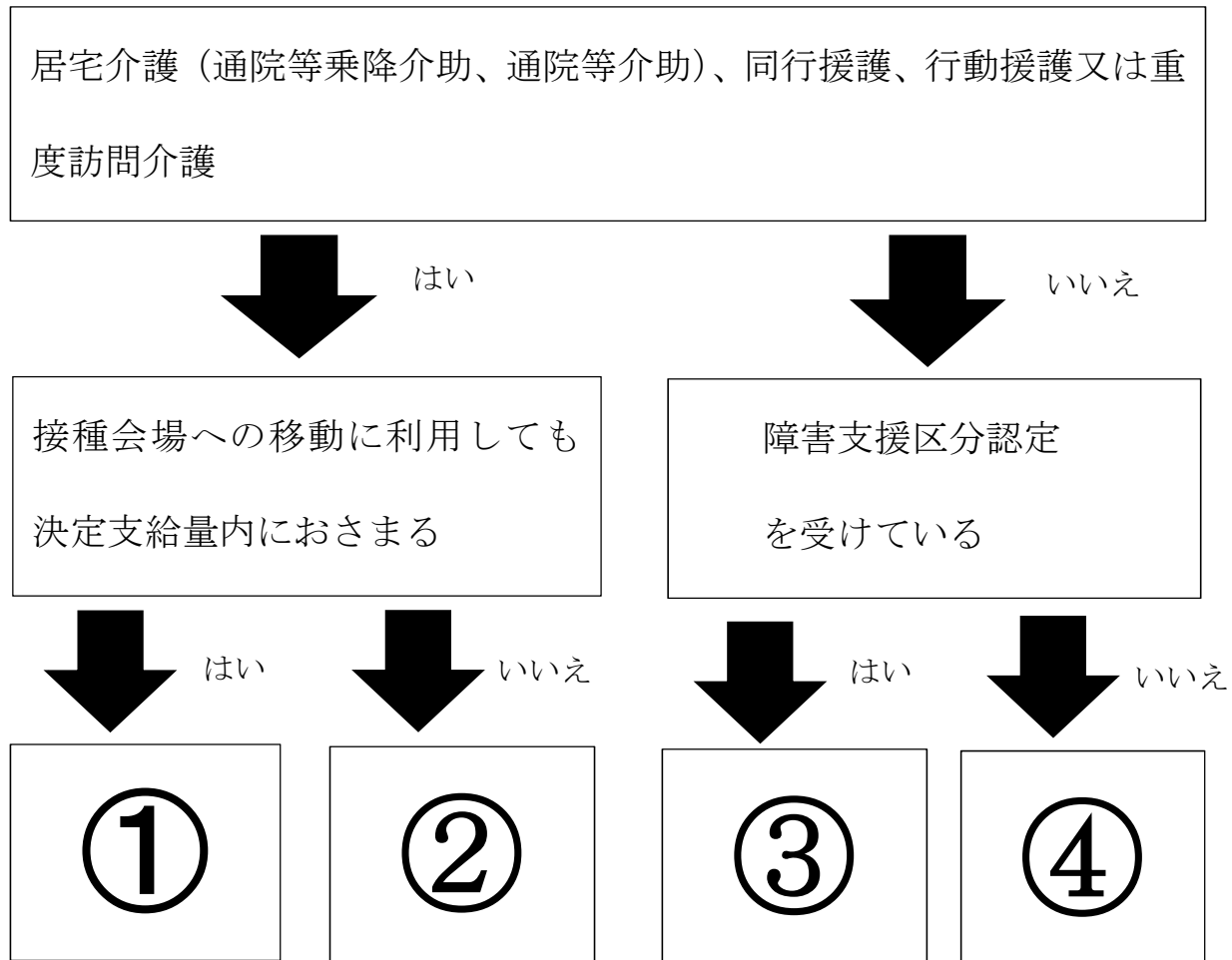
障害支援区分認定を受けていない場合は、移動支援事業を利用することができるが、上記1の居宅介護等の支給決定も受けている場合は、居宅介護等の障害福祉サービスが優先となる。

なお、新型コロナウイルスワクチン接種会場への移動に移動支援事業を利用することにより、移動支援事業の決定支給量を超えてしまう場合には、事前に、利用者から住んでいる地区の担当窓口へ相談が必要となる。

3. ワクチン接種会場内における介助の取扱いについて

上記1及び2いずれの場合についても、ワクチン接種会場内において、必要な援助を行った場合は、報酬を算定することが可能である。

<フローチャート>



①手続き不要

支給決定を受けている障害福祉サービスを利用する。

②支給量変更

新型コロナウイルスワクチン接種会場への移動に利用する障害福祉サービスの支給量を変更して対応する。事前に、利用者から住んでいる地区の担当窓口へ相談が必要となる。

③障害福祉サービス追加

新型コロナウイルスワクチン接種会場への移動に利用する障害福祉サービスを追加して対応する。事前に、利用者から住んでいる地区の担当窓口へ相談が必要となる。

④【移動支援事業の支給決定を受けている方】

移動支援事業の決定支給量内におさまる場合、手続き不要で移動支援事業を利用する。

決定支給量を超えてしまう場合、事前に、利用者から住んでいる地区の担当窓口へ相談が必要となる。

【移動支援事業の支給決定も受けていない方】

利用者から住んでいる地区の担当窓口へ相談が必要となる。